生涯学習だより

２月１日号

●編集発行　芳賀地区生涯学習奨励員連絡協議会

芳賀の史跡めぐり -22-

どんどん焼き

■由来

古くは、朝廷で行われ、清涼殿の庭で青竹を焼いて天皇の書かれた古書を天に昇らせ、青竹に扇を結びつけて燃やしたりした「左義長」という小正月（1月15日）に行われる火祭です。

広く関東では、「どんどん焼き」、「どんど焼き」、「道祖神祭」といわれる道祖神信仰と結びついた火祭りです。

一般的には、道祖神（峠や辻、村境などの道端にあって、悪霊や疫病などを防ぐ神で石像の形態で祀られる神で村の守り神、子孫繁栄の神）の近くに竹、わら、杉の葉などで小屋などを作り、正月の松飾り、注連縄、書初めなどを家から持ち寄り、火にくべて燃やし、無病息災を祈り、良い年を迎える祭りです。

天から降りてきた歳神様はどんどん焼きの煙に乗って天に帰るとされ、それを見送りするために行われます。

■どんどん焼きという不思議な名前の由来は

どんどん燃えるから、燃やし始めに青竹がはぜて「どんっ」と音がするからなど諸説あり、音の響きからついたようです。

■芳賀地区では

戦前は、ほぼ「クルワ」毎に行われていたようです。「クルワ」とは、一定の地域を限ってその周囲と区別するために設けた囲いに囲まれたその一区画の地域です。そして行事の形態とすれば、子ども達が竹やしの、縄を持ち寄って小屋を作り（まわりに家や木などのない田んぼの中、危険や火事を防ぐため）、正月に供えた門松や注連縄、古いだるまなどを集めて小屋に入れます。子ども達は、小屋の中にわらなどをしいて、かるたやすごろくをして夕方になるのを待ちます。夕方になると大人達も集まって、子ども達にけがや火事にならないようにいろいろと世話をしてくれます。準備がととのってからもう一度、小屋の中に人がいるかいないかを確かめてから火をつけます。

集まった人達は、思い思いに鏡開きをした餅や切れ餅を持ってきて、この火で焼いて食べます。この餅を食べると風邪をひかない、一年を健康に過ごせるなどの言い伝えがあります。また、この燃えかすを家に持ち帰り、かまどの種火にし、一年間息災に過ごせるや燃えさしを屋根におくと火事にならないなどの言い伝えもあります。

■現在のどんどん焼きは

戦後、この伝統行事がすっかり影をひそめてしまいましたが、実施している地区は、勝沢町、小神明町、小坂子町、鳥取町において有志の方々の努力によって、規模や形態は異なりますが、見事に伝統のどんどん焼きを復活させ、行われています。この無形の伝統行事をこれからも見守っていきたいものです。

生涯学習奨励員
中山　洋子

勝沢町のどんどん焼きの様子

2月の主な行事予定

２月７日(日)前橋市議会議員選挙投票日

２月８日（月）・９日(火)マイナンバーカード申請出張受付（芳賀公民館）